

## 会 議 録

会議の名称		令和5年度第1回洞峰学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和5年(2023年)5月30日 開会 14:30 閉会 16:30		
開催場所		つくば市立二の宮小学校 2階 NINO ラボ		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	木村敦至、塚本和男、加藤千里、村岡敬子、柳沢逸夫、高野和直、樋口直宏、長谷静香 竹内崇(オンラインで参加) 谷田部東中学校：校長 永井英夫、教頭 坂匡浩 教務主任 平山雅一 小野川小学校：校長 大高純子、教頭 渡部哲 教務主任 村田晴美 二の宮小学校：校長 高木素子、教頭 内藤雅巳 主幹教諭 本松知美 東小学校：校長 横田康浩、教頭 塚田伸子		
	その他			
	事務局等	学び推進課：参事 久松和則 生涯学習推進課：課長補佐 色川純子 係長 飯島遊 社会教育主事 渡邊亮太、村上和宏 地域連携教育指導員 酒井和宏、小島健		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由				
議 題		1 つくば市のコミュニティ・スクール導入について 2 学園の教育活動について 3 熟議「ランドデザインについて」 4 その他(推進会議の今後の予定)		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開 会 2 選任通知書交付 3 つくば市のコミュニティ・スクール導入について 4 学園の教育活動について、熟議「ランドデザインについて」 5 閉 会			

〈審議内容〉

1 開 会

(1) 教育長挨拶（久松参事代読）

2 選任通知書交付（久松参事より代表者へ）

3 つくば市のコミュニティ・スクール導入について（渡邊社会教育主事）

4 学園の教育活動について

(1) 各小中学校よりグランドデザインの説明（各校校長より）

小野川小：児童もグランドデザインを理解しやすいように合言葉を設定→夢や希望の実現を意識。学園目標の「つなぐ」を意識した施策。体験的活動をコミュニティ・スクールの足がかりに。

二の宮小：対話で学び、つながっていく楽しい学校。組織目標に向かって学級目標を設定。児童の教えから学びへ向かう姿を支える協働的な教職員集団。ルールメイキングの推進。

東小：学級経営と特別活動で主体性を育む。働き方改革の推進。学校支援ボランティアの活用強化→ともに学校をつくる地域に根差した教育の推進。

谷田部東中：夢や希望をもっている生徒 R4 年度 4 月 3 割～4 割→志を持つことを目標に設定。大人も子供もともに育つ学校づくり。知徳体のバランスをとった施策。課題についても地域とともに話を進めていく。

(2) グランドデザインの賛同：賛成多数で賛同

(3) 熟議「グランドデザインについて重きを置きたい点」各校からの発表（各校教頭）

小野川小：勇気をもって他者と関われるような活動を展開。地域と協力した交通安全教育・見守り活動を継続。

二の宮小：自己との対話をベースに、児童同士・大人・地域との対話へ。児童

の考えを受け入れ、全学年で取り組む活動・つながる活動を展開。

東小 : 自己決定できる児童育成のために小さな成功体験を積み重ねる。→  
求められる人材育成。地域も巻き込み学校支援ボランティア活用。

谷田部東中 : DCAA 部活動地域移行推進。人材確保も課題になってくる。不登校  
の状況や要因は様々（人間関係・学力等）。折れない心の育成推  
進。

(4) 全体から問題提起・感想など

- ・ コミュニティ・スクールを、子供達を支える仕組みに。
- ・ 各校の良さを見つけ合って、分け合っていける場に。
- ・ 縦のつながり、情報交換、地域ができることを考える場に。

(5) その他

第2回 10月4日（水）小野川小

第3回 2月13日（火）東小

5 閉 会

令和5年度第1回洞峰学園（学校）コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和5年5月30日（火）

14：30～

場所：つくば市立二の宮小学校 NINO ラボ

次 第

1 開 会

2 選任通知書交付

3 挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクール導入について

5 座長・副座長の選出

6 協 議

(1) 学校運営の基本方針について

(2) 各学校のグランドデザインの具体的理解について

(3) その他

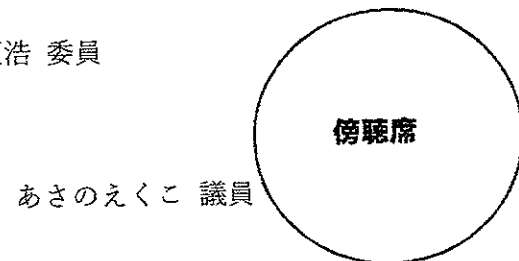
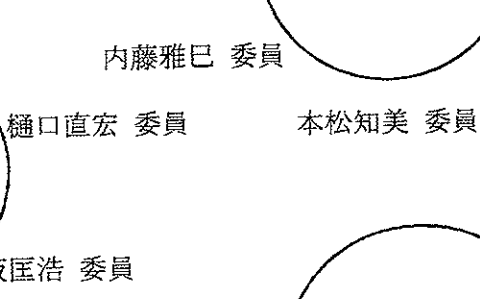
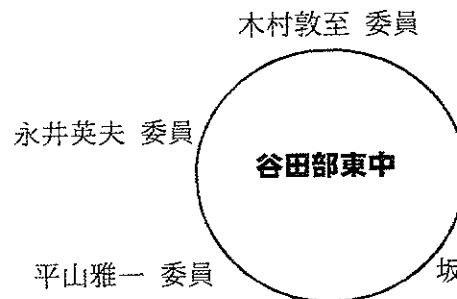
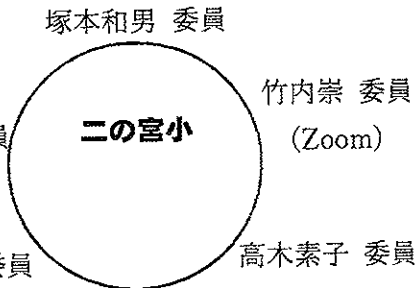
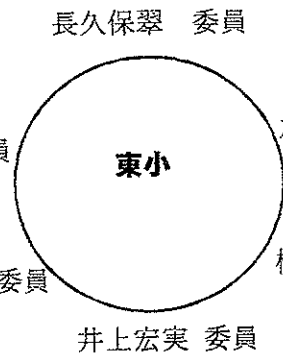
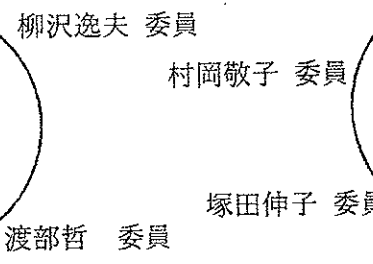
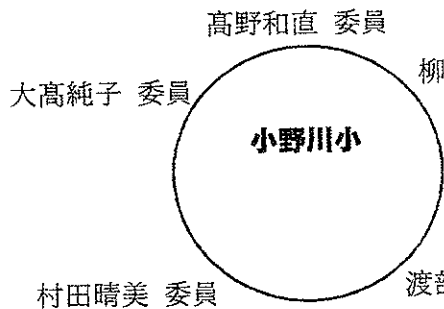
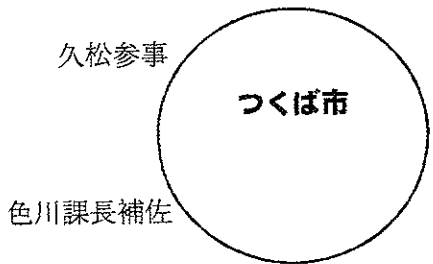
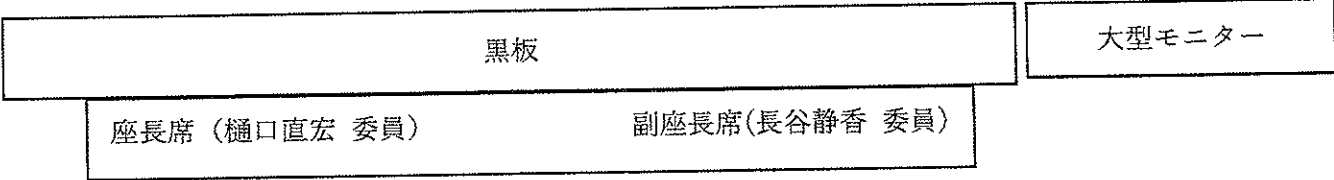
・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

7 閉 会

令和5年度 洞峰学園コミュニティ・スクール推進会議・協議会

番号	委嘱の区分	氏名	よみがな	所属・役職
1	(1) 児童・生徒の保護者	竹内 崇	たけうち たかし	R5二の宮小学校PTA会長
2	(1) 児童・生徒の保護者	長久保 翠	ながくぼ みどり	R4東小学校PTA会長
3	(2) 地域住民	木村 敦至	きむら あつし	R3谷田部東中学校PTA会長
4	(2) 地域住民	塚本 和男	つかもと かずお	元評議員
5	(2) 地域住民	加藤 千里	かとう ちさと	元評議員
6	(2) 地域住民	村岡 敬子	むらおか けいこ	元評議員
7	(2) 地域住民	柳沢 逸夫	やなぎさわ はやお	小野川小元評議員
8	(2) 地域住民	高野 和直	たかの かずなお	小野川小元評議員
9	(3) 各学校長・教職員	永井 英夫	ながい ひでお	谷田部東中学校 校長
10	(3) 各学校長・教職員	坂 匡浩	さか まさひろ	谷田部東中学校 教頭
11	(3) 各学校長・教職員	平山 雅一	ひらやま まさかず	谷田部東中学校 教務主任
12	(3) 各学校長・教職員	高木 素子	たかぎ もとこ	二の宮小学校 校長
13	(3) 各学校長・教職員	内藤 雅巳	ないとう まさみ	二の宮小学校 教頭
14	(3) 各学校長・教職員	本松 知美	もとまつ ともみ	二の宮小学校 主幹教諭
15	(3) 各学校長・教職員	横田 康浩	よこた やすひろ	東小学校 校長
16	(3) 各学校長・教職員	塚田 伸子	つかだ のぶこ	東小学校 教頭
17	(3) 各学校長・教職員	井上 宏実	いのうえ ひろみ	東小学校 教務主任
18	(3) 各学校長・教職員	大高 純子	おおたか じゅんこ	小野川小学校 校長
19	(3) 各学校長・教職員	渡部 哲	わたなべ さとし	小野川小学校 教頭
20	(3) 各学校長・教職員	村田 晴美	むらた はるみ	小野川小学校 教務主任
21	(4) 学識経験者	樋口 直宏	ひぐち なおひろ	筑波大学 教授
22	(4) 学識経験者	長谷 静香	はせ しずか	カウンセラー

R5.5.30 (火) 二の宮小学校  
NINO ラボ



## つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項

### (開催)

第1条 教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第47条の5に規定する学校運営協議会の設置及び運営に関する検討を行うため、指定する小中一貫型小学校・中学校（つくば市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則（昭和62年つくば市教育委員会規則第8号）第5条に規定する小中一貫型小学校・中学校及び義務教育学校において、コミュニティ・スクール推進会議（以下「推進会議」という。）を開催する。

### (定義)

第2条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) コミュニティ・スクール 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に規定する学校運営協議会をいう。
- (2) 学園等 つくば市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則第5条に規定する小中一貫型小学校・中学校及び義務教育学校をいう。

### (検討事項)

第3条 推進会議は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) コミュニティ・スクールの設置及び運営に関する事項
- (2) 前号に掲げるもののほか、コミュニティ・スクールの推進に関し必要な事項

### (構成)

第4条 推進会議は、学園等ごとに、次に掲げる者のうちから、教育委員会が選任した者30人以内をもって構成する。

- (1) 当該学園等に在籍する児童又は生徒の保護者のうちから、学校長が推薦する者
  - (2) 学園等の所在する地域の住民のうちから、学校長が推薦する者
  - (3) 各学校長並びにその他の教職員
  - (4) 学識経験者
  - (5) 関係行政機関の職員
  - (6) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が適当と認める者
- (開催期間)

第5条 推進会議は、学園等ごとにおおむね1年間開催する。ただし、コミュニティ・スクールを設置したときは、その日の前までとする。

(座長等)

第6条 推進会議に座長及び副座長を置く。

- 2 座長及び副座長は、構成員の互選により定める。
- 3 副座長は、座長に事故があるときは、座長となる。

(庶務)

第7条 推進会議の庶務は、学園等及び教育局生涯学習推進課において処理する。

(補則)

第8条 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要項は、令和4年5月1日から施行する。





本県の教育目標	いばらき教育プラン(茨城県総合計画より)
ひとりひとりの能力を開発し 豊かな人間性をつちかう じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う 郷土を愛し 協力しあう心を育てる	基本理念 活力があり、県民が日本一幸せな県 Ⅲ「新しい人材育成」 茨城県の未来をつくる「人財」を育て、 日本一子どもを産み育てやすい県を目指す

つくば市が目指す学校像 **☆ みんなが幸せを実感できる学園・学校 ☆**  
～自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校～

洞峰学園教育目標 夢や希望をもち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成  
～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」小中一貫教育を通して～

学校教育目標 **自ら学び、心豊かな、たくましい児童の育成**

合言葉は 「元気」「本気」「勇気」!

組織目標  
・学ぶ楽しさやわかる喜びが実感できる授業づくりを通して、自ら学ぶ児童を育てる  
・協働的な活動を通して、よりよい人間関係を築くことができる児童を育てる

研修テーマ 学ぶ楽しさやわかる喜びが実感できる授業づくり  
～「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を通して～

教えから学びへ  
管理から自己決定へ  
認知能力偏重から非認知能力の再認識へ

【具体的施策】

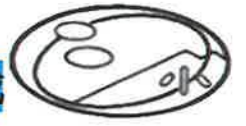
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善
    - ・学習課題・発問の工夫(問いから始まる学び)
    - ・子供の意見をつなぎ、考えを深め広げる授業の更なる推進
    - ・ゴールへ向かう学習活動と学習過程を選択できる探究的な学びのデザイン
  - ICTを活用するなど、多様な意見交流が図れる道徳の充実
  - 個々の発達段階と教育的ニーズに応じた学びの充実
    - ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
    - ・合理的配慮の充実
  - 一人一人が認められ、生かされる学年・学級経営の充実
    - ・互いの良さを認め合い高め合う場の設定による、よりよい人間関係づくり
    - ・自己決定する場の提供
    - ・学校生活をよりよくするための話し合い活動の充実(ルールメイキングの実施)
  - 実体験や試行錯誤が保障される特別活動の推進
    - ・子供の好奇心を尊重し、最後までやりぬく体験の充実
    - ・自主性と主体性を意識した縦割り班活動の工夫
  - 安全安心な学校づくり
    - ・いじめ防止の取組充実(SC活用、i-check活用)と情報発信
    - ・危機意識が強く、包容力のある教職員
- 
- 働きがいを実感し、幸せが感じられる職場環境の整備
    - ・業務の見直しと教職員のアイデアによる業務の効率化
    - ・月45h、年間360h以内の時間外勤務達成
  - 服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成
    - ・チームワークコミュニケーションの向上 ～居心地のよい職場づくり～
    - ・学校コンプライアンス推進委員会の充実
  - コミュニティ・スクール推進会議を核とした地域・保護者と連携した学校づくり

達成状況の評価 ・単元テスト・県学力診断のためのテスト・全国学力学習状況調査・学校評価アンケート  
・キャリアパスポートの記述・教育相談・学校生活アンケート・体力テスト 等



# 令和5年度 洞峰学園二の宮小学校グランドデザイン

洞峰学園教育目標：夢や希望を持ち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成



**本県教育目標**

- ひとりひとりの能力を開発し、豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し、協力する心を育てる

洞峰学園の目指す児童・生徒像		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら考え、自ら学ぶ児童・生徒</li> <li>○心豊かで社会力のある、たくましい児童・生徒</li> <li>○心身ともにたくましく健康な児童・生徒</li> </ul>		
1～4年	5～7年	8～9年
身近な人と関わりながら、学習習慣を身に付け、学ぶ楽しさを味わう児童	地域の人と関わりながら、学んだことを生活に生かす児童・生徒	社会と関わりながら、主体的に学び、行動できる生徒

**つくば市の目指す学園学校像**

みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園

～自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校～

ここに のびのび みとめあい、みかきあい、ゆるる気山ごえ く オンリー1

**組織目標：対話で学び、つながっていく、楽しい学校**

**研修テーマ 他者と関わり合い、主体的に解決できる児童の育成**  
～学びがいがある授業展開の工夫を通して～

学びを創り出す児童	自ら関わり合う児童	学び続ける教師
<p>学びがいがある学びを生み出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分タイム ・全体タイム</li> <li>・友達タイム ・振り返りタイム</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「なぜだろう」「どうしてだろう」から始まる学び</li> <li>○意見をつなぎ、広げ深める学び</li> <li>○教科を横断する学び</li> <li>○情報活用力の向上（読書の推進）</li> <li>○授業とつながる家庭学習の工夫</li> <li>○個に応じた学び・協働的な学び合い</li> </ul>	<p><b>ルールメイキング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会や実行委員会を中心にした居心地の良い学校づくり</li> <li>○上学年から下学年への安心・安全のバトンリレー</li> <li>○「いじめのない学校づくり」の共通認識の醸成</li> <li>○保護者・地域ボランティア・GTの活用</li> <li>地域歴史や民俗学に詳しい方</li> <li>STEAM 研究所・地域農園 等</li> </ul>	<p><b>変化を受け止めチームで取り組む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアステージを高める研修</li> <li>○世代をつなぐミドルリーダー育成</li> <li>○全職員を生かすOJT</li> <li>○意見を生かした参画意識の向上</li> <li>○課題解決のためのPDCAサイクルとOODAループの併用</li> <li>○校内研修と教員評価の往還</li> <li>○ICT活用指導力の向上</li> <li>○授業⇔家庭学習の連続性の構築</li> <li>○よりよい授業を目指す改革意欲</li> </ul>

**児童・保護者・教師のよりよい人間関係づくり「一人一人の居場所となる学級・学校（職場）」**

自分の良さを知り、伝えることができる。  
相手に向き合い、話を聞くことができる。

相手の良さを見つけて、伝えることができる。  
相手を応援し支えあうことができる。

**学校・地域・保護者とともにつくる安心・安全な学校**

**未来社会を生きる資質能力の育成**

- リアル社会とデジタル社会に必要なソーシャルスキルの獲得
  - ・児童と保護者、教師それぞれに必要な情報モラル教育
- 多様な他者との理解と協働
  - ・国際理解と外国語教育の推進（GT活用）
  - 保護者による英語読み聞かせ
- 危機回避能力の育成
  - ・避難訓練・安全教育の充実

**地域や社会につながる開かれた学校**

- コミュニティスクールにつなぐ協働体制構築・学校評価検討委員会（地域・専門家・教職員・PTA）で協働思考
- チーム学校での対応
- 児童の特性や家庭の課題を早期に把握し、社会的自立を目指した適切な対応。
- OSC、SSW、関係専門機関等との連携



# 令和5年度 洞峰学園つくば市立東小学校グランドデザイン



洞峰学園教育目標：夢や希望をもち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成

## 本県教育の目標

- ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかかう
- じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

つくば洞峰学園の目指す児童・生徒像		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、自ら学ぶ児童・生徒</li> <li>・心豊かで社会力のある児童・生徒</li> <li>・心身ともにたくましく健康な児童・生徒</li> </ul>		
1～4年	5～7年	8～9年
身近な人と関わりながら、学習習慣を身に付け、学ぶ楽しさを味わうことができる児童	地域の人と関わりながら、学んだことを生活に生かすことができる児童・生徒	社会と関わりながら、主体的に学び、行動できる生徒

## つくば市

目指す学園・学校

- みんなが幸せを実感できる学園・学校（自己実現できる学校・みんなを支え合い、みんなが生きてきた学校）

## 9年間の学びの連続性を大切にした教育の実践

- ・楽しく感動のある教育の実践
- ・地域に根ざした教育の推進

## 校訓

自ら学び  
心ゆたかに  
たくましく

### 学校の教育目標

自ら学び、心ゆたかに、たくましく生きる児童の育成

### 学校の組織目標

1. 学級経営と特別活動で主体性を育む「管理から自己決定へ」の学年・学級経営
2. 意識改革と業務改善で進める働き方改革・45時間超0（ゼロ）

### 研究テーマ

生活をよりよくするために協働して実践する力を育成する学級集団の育成  
～傾聴する活動の工夫を通して～

学校ホームページ



4月17日版

自らの学び	ゆたかな心	たくましさ
<p>【重点目標】 教えから学びへ ～個別最適な学びと協働的な学びの実現～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的・対話的で深い学びの実現           <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら課題を設定し、他社と協働するなどして課題を解決する学習の充実に向けた指導計画の工夫</li> <li>○学習意欲を引き出す課題設定の工夫や、考えを広げたり深めたりする発問の工夫</li> <li>○習得した概念や考え方を活用し、新たな問いを見いだして解決する授業の工夫</li> </ul> </li> <li>2. 基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等を育む授業の工夫           <ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能の確実な習得を図るための体験的な学習や繰り返し学習の充実</li> <li>○自分の考えをもち、他者の考えとの共通点や相違点を捉え、考えを深めていく活動の工夫</li> </ul> </li> <li>3. 個に応じた多様な指導方法及び指導体制の工夫改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ティーム・ティーチングや習熟の程度に応じた学習、少人数指導の充実</li> <li>○効果的な活用場面や方法を想定したGIGAスクール端末の活用</li> <li>○専門性を生かした中・高学年の教科担任制（外国語、音楽）</li> </ul> </li> <li>4. どの子どもを活かし、どの子ども伸ばす教育の充実           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインの視点を活かした授業づくり</li> </ul> </li> </ol> <p>【授業改善：教えから学びへ3つのポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自ら学ぶ意欲を高める           <ul style="list-style-type: none"> <li>～学習課題へのこだわり～</li> <li>・試行錯誤できる課題の設定</li> <li>・解決の見通しをもたせる</li> </ul> </li> <li>(2) 学び合うために           <ul style="list-style-type: none"> <li>～対話へのしかけ～</li> <li>・自分の意見をしっかりとらせる</li> <li>・教師が対話を生み出すように発問する</li> <li>・お互いの意見を共有するための指導、手立て</li> </ul> </li> <li>(3) 学びを自覚するために（メタ認知）           <ul style="list-style-type: none"> <li>～振り返りの工夫～</li> <li>・時間を確保する</li> <li>・視点を与える</li> </ul> </li> </ol>	<p>【重点目標】 管理から自己決定へ ～互いに認め合い、よりよく生きるために～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動の充実           <ul style="list-style-type: none"> <li>○学級の諸問題について話し合っ解決する活動の重視</li> <li>○発達段階に応じた当番活動と係活動の指導と評価</li> <li>○いじめ等の未然防止につながる児童会の自主的な取組の推進</li> <li>○異年齢集団の活動の日常化（登下校、清掃活動）</li> <li>○2. どの子どもを活かし、どの子ども伸ばす教育の充実</li> <li>○ユニバーサルデザインの考えで進める学級経営</li> </ul> </li> </ol> <p>【学年・学級経営の充実：管理から自己決定へ2つのポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学級経営で主体性を育む           <ul style="list-style-type: none"> <li>～お互いに認め合い、共にゴールを目指す学級へ～</li> <li>・よい学級とは？本質の理解と共有</li> <li>・目標づくりの工夫</li> </ul> </li> <li>(2) 特別活動で主体性を育む           <ul style="list-style-type: none"> <li>～自分たちで考え、工夫する学級へ～</li> <li>・話し合い活動「学級活動（1）」の充実</li> <li>・係活動の充実 指導と評価の視点：「進んで」「協力して」「工夫して」「責任をもって」</li> </ul> </li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実           <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考え、議論する道徳」の推進</li> </ul> </li> </ol> <p>【指導方法の工夫7つの視点】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 書く活動の工夫</li> <li>(2) 教材提示の工夫</li> <li>(3) 話し合い方法の工夫</li> <li>(4) 表現活動の工夫</li> <li>(5) 板書の工夫</li> <li>(6) 説話の工夫</li> <li>(7) 発問の工夫</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感謝と思いやりの心を育てる人権、福祉体験活動の推進</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 時代の変化やグローバル社会に対応できる教育の推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いばらき キャリア・パスポート」を活用したキャリア教育の推進</li> <li>○自国文化や異文化の理解を深める国際教育の充実</li> <li>○SDGs（持続可能な開発目標）時代におけるESD（持続可能な開発のための教育）の推進</li> <li>○家庭との連携による情報モラル教育の推進</li> </ul> </li> </ol>	<p>【重点目標】 実践力へ ～健康で安全な生活を送るために～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体力の向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;体育の時間に&gt;               <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の導入におけるサーキットトレーニングの実施</li> <li>○体力向上タイムの設定</li> </ul> </li> <li>&lt;昼休みに&gt;               <ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツチャレンジの活用</li> <li>○自発性を促す運動環境整備                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動（遊び）の場の設定</li> <li>・運動（遊び）道具の開発</li> <li>・運動（遊び）の提供</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>&lt;家庭で&gt;               <ul style="list-style-type: none"> <li>○動画を活用して</li> <li>○体づくり運動（実生活に生かす運動）の計画・実践</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2. 健康教育の充実           <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校栄養職員、養護教諭・担任との連携による食育及び保健指導</li> <li>○「早寝早起き朝ごはん」運動の推進（毎月19日からの一週間を推進強化週間）</li> <li>○飲酒・喫煙・薬物乱用防止・性・がんに関する指導の充実（外部講師の積極的な活用）</li> </ul> </li> <li>3. 安全教育の充実 ～危険予測能力・危険回避能力の育成～           <ul style="list-style-type: none"> <li>○安全について児童が自ら考える場を設定</li> <li>○保健学習や学級指導を充実</li> </ul> </li> </ol>

## 安全・安心な学校づくり

1. 食物アレルギー対応力の向上
2. AED及び心肺蘇生法の定期的な研修
3. 地域との連携による学校防災連絡会議及び学校防災推進事業の実施

## 教師力・学校力の向上

1. 「教員の資質の向上に関する指標」を基にしたキャリアステージに応じた人材育成
2. GIGAスクール端末の活用推進
3. 教員評価を活用した人材育成並びに学校活性化
4. 教員の業務量の適切な管理（働き方改革）の推進
5. 教育公務員としての自覚と服務規律の確保

## 地域とともにある学校づくり

1. 家庭・地域との連携・協働「社会に開かれた教育課程」の推進
  - グランドデザインの周知
  - 研究機関やつくばサイエンスQによる「わくわくドキドキ出前授業」の実施
  - 学校支援ボランティア（学習活動支援、環境整備支援、安全確保/保健衛生、その他）の活用推進
  - 学校広報の充実
    - ・グランドデザインに基づく教育活動を紹介する学校だより
    - ・教育活動の事実並びにねらいを明記したホームページによる情報発信の充実
2. グランドデザインに基づく教育活動を展開する学校公開
  - 説明責任と学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めるための学校評価の活用
3. 保幼小連絡協議会の定期開催並びに東幼稚園との交流・連携の推進
4. 地域との連携による学校防災連絡会議の開催並びに学校防災推進事業の実施
5. 洞峰学園コミュニティ・スクールにおける「地域学校協働活動」の推進



【洞峰学園教育目標】  
夢や希望をもち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成  
～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」小中一貫教育を通して～

＜本県教育目標＞  
ひとりひとりの能力を開発  
豊かな人間性をつちかう  
じょうぶな身体をつくり  
たくましい心を養う  
郷土を愛し、  
協力しあう心を育てる

【学校教育目標】  
志をもち、心豊かにたくましく生きる生徒の育成  
～未来を志向し、「夢の実現」に向けた小中一貫教育を通して～

つくば市の目指す  
学園・学校像  
みんなが幸せを実感  
できる学園・学校  
～自己実現できる学校・  
みんなで支え合い、みんな  
が生き生きとした学校～

【学校経営の方針】  
共に学び、共に磨き、共に鍛え、共に育つ学校づくり

学校像  
○生徒が「夢に」向かって輝く学校  
○教師が「やりがい」をもてる学校  
○保護者や地域から「信頼」される学校

生徒像 【立志・共創・躍動】  
◎自分の夢や可能性に意欲的に挑む生徒  
◎心豊かに誠実に行動し、共に未来を創造できる生徒  
◎健康で活力に満ち、いきいきと活動する生徒

教師像  
○熱意と愛情をもち生徒に寄り添う教師  
○指導力と実践力のある教師  
○未来を見つめ、改革意欲のある教師

◆保護者・地域の期待 ◆生徒の願い  
○安全・安心  
○学力向上  
○落ち着いた学校生活  
○進路実現  
○地域貢献  
○充実した学校生活  
○分かる授業  
○学びたくなる授業  
○心を許せる仲間  
○居場所のある学級  
○心を許せる仲間

組織目標  
○未来を志向し、「能動的な学び」の具現化を図る授業づくり  
○一人一人が「自己決定」し、夢の実現に挑める集団づくり

「夢」、「感動」へ挑戦する生徒を  
育成する小中一貫教育  
～夢をもち、夢を語り、夢の実現に挑む～

【スクール スローガン】  
輝く未来 きらめく明日への挑戦  
Active 谷東!

「対話」を核とした教育活動

<p>「未来型学力」プロジェクト</p> <p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「能動的な学び」への具現化を図る授業づくり</li> <li>◆ 探究的・協働的な学びの実現に向けた授業づくり</li> <li>・ 知的好奇心を高める課題の工夫</li> <li>・ インプット ⇒ 協働 ⇒ アウトプットを重視した PBL 学習の充実</li> <li>・ 社会を意識する探究タイム（特設学習）</li> <li>・ 地域資源を活用した魅力ある授業</li> <li>◆ ICT 教育の推進</li> <li>・ 思考を広げるための ICT の利活用</li> <li>◆ つくばスタイル科を核とした教科横断型の学習や STEAM 教育の推進</li> <li>◆ 「教育支援計画」を活用した「切れ目のない」特別支援教育の充実</li> </ul> <p>【数値目標◎80%以上○70%以上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎進んで授業に取り組み、自分の考えをもつ</li> <li>◎友達との学び合いを課題解決に生かす</li> <li>○授業で「アウトプット」を大切にしている</li> </ul>	<p>「豊かさ・しなやかさ」プロジェクト</p> <p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 互いを尊重し合える人間関係の醸成</li> <li>* 「自己決定」できる集団づくり</li> <li>◆ 9年間のつながりを意識した教育活動</li> <li>・ 「夢を実現」する系統的なキャリア教育</li> <li>◆ 自治能力の育成を目指す生徒会活動</li> <li>・ 「R 研修会」を核とした自治的行事</li> <li>・ 有志による生徒会活動「輝き隊」</li> <li>・ いじめゼロフォーラムの実施</li> <li>◆ 柔軟な指導体制による道徳教育</li> <li>◆ 共に創り上げる話し合い活動の充実</li> <li>◆ 外部人材を活用した体験活動</li> <li>◆ 5つの行動目標を生かした自主性・自律性の育成</li> <li>◆ 「折れない心」の育成と組織を活かした教育相談体制の確立</li> </ul> <p>【数値目標◎80%以上○70%以上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「夢の実現」に挑もうとしている</li> <li>○自分には良いところがあると思う</li> <li>◎相手の気持ちを考えて行動できる</li> </ul>	<p>「たくましさ」プロジェクト</p> <p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 健康で安全な生活を送る体力づくり</li> <li>* 安全・安心な環境づくり</li> <li>◆ 体力向上プログラムの実施</li> <li>・ 目的意識を持たせた体育の授業、部活動の充実</li> <li>◆ 地域と学校の協働による文化・スポーツ活動（DCAA）</li> <li>◆ 外部人材や家庭と連携した健康教育プログラムの充実</li> <li>◆ 系統的な自己管理能力の育成</li> <li>◆ 危機意識に基づくコロナ感染症対策</li> <li>◆ 事故の未然防止と組織での迅速な初期対応</li> <li>◆ 保護者・地域と連携した防災教育、安全教育、情報モラル教育等の充実</li> </ul> <p>【数値目標◎80%以上△60%以上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分の健康や安全を考えて行動できる</li> <li>◎心身ともに成長していると思う</li> <li>△体力テストA+B</li> </ul>
---	--	--

地域とともにある学校づくり

<p>□地域とともに歩む学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域、保護者との協働体制の構築（CS 導入準備）</li> <li>・ 積極的な情報発信と学校評価の活用</li> <li>・ 外部人材を活用した補充学習</li> </ul> <p>□大学・研究機関・企業との連携</p>	<p>RPDCA</p> <p>学校評価</p>	<p>□教職員の資質・能力の向上</p> <p>「与えられる研修」⇒「求める研修」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学び連続性」を保障する学園研修</li> <li>・ 業務の効率化を図る学校のデジタル化</li> <li>・ 教員評価を生かした資質・能力の向上</li> </ul>
--	--------------------------	---

働き方改革の推進  
【数値目標】超過勤務45時間/月以内～キャップ・カット・効率化～  
・部活動地域連携事業 ・末尾1hの有給休暇 ・日課の工夫

コンプライアンス意識の醸成  
【数値目標】不祥事「ゼロ」～自分たちの職場から不祥事を出さない～  
・当事者意識を高める研修 ・教員評価の活用 ・組織的な相談体制

## 会 議 録

会議の名称		令和5年度第2回洞峰学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和5年(2023年)10月4日 開会 14:30 閉会 16:30		
開催場所		つくば市立小野川小学校 CAI 室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	樋口直宏委員(座長)、長谷静香委員(副座長) 竹内崇委員、長久保翠委員、木村敦至委員、塚本和男委員、 加藤千里委員、村岡敬子委員、柳沢逸夫委員、 谷田部東中学校：校長 永井英夫、教頭 坂匡浩 小野川小学校：校長 大高純子、教頭 渡部哲 二の宮小学校：校長 高木素子、教頭 内藤雅巳 東小学校：校長 横田康浩、教頭 塚田伸子		
	その他	谷田部東中学校：教頭 野中忠雄		
	事務局等	生涯学習推進課：課長 澤頭由紀子、社会教育主事 渡邊亮太、 社会教育主事 村上和宏、地域連携教育指導員 酒井和宏、 地域連携教育指導員 小島健		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	2人
非公開の場合はその理由				
議 題		1 授業参観 2 協議「洞峰学園において、児童生徒の成長をどう見守り、支えていくか」		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開 会 2 座長挨拶 3 本日の日程について 4 授業参観 5 協議 熟議テーマ：洞峰学園において、児童生徒の成長をどう見守り、支えていくか ～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」教育を通して、学校と地域が行えることは～			
	6 閉 会			
〈審議内容〉				

## 1 開 会

## 2 座長挨拶

## 3 本日の日程について説明

## 4 授業参観（25分間）

小野川小学校の6校時の授業での児童の様子を委員全員で参観する。

## 5 協議

### (1) 第1回会議の振り返り 議事録をもとに

### (2) 本日の熟議テーマ「洞峰学園において、児童生徒の成長をどう見守り、支えていくか」～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」教育を通して、学校と地域が行えることは～を踏まえて、各校教頭より「児童生徒に身に付けさせたい力」について説明

#### ア 小野川小学校

- ・学力面では、自分の考えを上手に伝える表現する力。多くの資料や情報を元に文章を書く力。読解力。
- ・心の面では、地域の人への思いやり。明るく前向き生きる力。誰にでもあいさつする元気な心。地域の人への思いやり。
- ・体の面では、危険回避力、学区が広く狭い道も多いから。体力テストAが少ない、Aに近づけたい（遊びから）。

#### イ 二の宮小学校

- ・学力面では、自分の考えをもち、他者の考えの共通点や相違点を踏まえ、考えを深めていく力。習得した考えを活用し、解決する力。シームレスな家庭学習の習慣。得意を生かせる。
- ・心の面では、感謝と思いやりの心。情報モラル教育。想像力。社会性とコミュニケーション力。自己肯定感を高めたい。いじめ未然防止につながる児童会などの自主的な取り組み。
- ・体の面では、危機回避能力（安全な登下校・ケガの予防）。体力向上。

- ・早寝・早起き・朝ごはん。

#### ウ 東小学校

- ・学力面では、自分の考えを書いて表現する力。他者との多様な関わり。対話を通して学びを深める力。探究的に学びを進める力。
- ・心の面では、相手を応援し支えることができる力。相手に向き合い、話を聞くことができる力。相手の良さを見つけて伝える力。自分の良さを知り、伝える力。自己肯定感の高揚。
- ・体の面では、自分を守る力、危機回避能力。走力(瞬発力、持久力)。SOS の出し方。

#### エ 谷田部東中学校

- ・学力面では、生徒同士のアウトプットからの学び合い。モチベーションを引き上げる工夫。コロナの影響が大きい。主体的能動的に学習に向う。
- ・well-being Agency (OECD2030)。
- ・心の面では、周囲と共に個がよりよく生きるには。折れない心の育成、自己肯定感。目標・夢に挑む力。
- ・体の面では、体力の向上(持久力、柔致性)。DCAA の永続。愛校精神の薄れ。部活動は教育活動に必要なのか。

#### (3) 洞峰学園、地域の課題についての熟議

##### 【確かな学力】

- ・家庭学習について、自分から考える力をつけるのは親も難しい。自ら積極的にできる方法を知りたい。(竹内委員)
- ・家庭学習は、やらされていると思うとだめ、目標を自分で決めることが大切。(長久保委員)
- ・参観をしていて、低学年でもタブレットを使用していて良かった。スマホは子どもがよくできる。親がついていけない。ネットで危険がないような教育を、学校と親が協力してやることが大切。(木村委員)

### 【豊かな心】

- ・児童生徒の登校の問題、中学校からみてどうか。（樋口座長）
- ・全国的に不登校が増えている状況の中、中学校でも、不登校の生徒への家庭訪問を実施している。本校は20クラスあり、先生方は年間をとおして各御家庭に数多く足を運んでくれている。社会的に自立するためにどうするかを考えて保護者と話し合い、校内フリースクール等多様な学びを提供している。それでも、増やさないようにするので精一杯な状況である。不登校は小学校からの生徒もいるが、中学校に入ってからなる生徒もいる。学力向上も大切だが、自己有用感、自己肯定感を高めて不登校児童を減らすことも義務教育には大切だと考える。（永井委員）
- ・子どもにとって、家庭の明るさが大切。挨拶ができる子どもは、家庭が明るい。家庭を明るく元気にする呼びかけが大切だ、と小野川小のグループで話し合った。（渡部委員）
- ・自己肯定感を上げるのは大変。自己受容が大切だと思う。不登校でもいい。雨でも学校に行けてえらい。そのままでもいい。などと地域の人が、子どもたちに声かけをすることが子どもには大切ではないか。
- ・自己肯定感の高揚が必要とあったが、今の子どもは、自己肯定感は十分だと思う。そのままでもいい。挨拶ができないと話があったが、知らない人には話してはいけないという家庭もある。挨拶ができる地域にするため、学校と話し合いを進めている。（竹内委員）
- ・登下校の見守りをしている人はベストを着ている。その方々には、元気に挨拶をしてほしい。明るく挨拶をし合うことは、生涯にわたって大切なこと。挨拶をしなさいと学校や家庭で言うのではなく、親の姿を見て子は育つ、挨拶、お礼、感謝するような家庭を築いてもらいたいことがよいのでは。

### 【健やかな体】

- ・最近の子どもたちのダンスはすごい。体力を上げるために、ダンスもいいと思う。



(樋口座長)

- ・朝、サッカーをしている家族を見かける。運動が好きな家庭の子どもは運動する機会が多いと思う。(村岡委員)
- ・部活動の後に、家庭で場所を借りて運動している生徒もいる。(永井委員)
- ・運動しない親の子は、学校で継続して運動することが大切。今回の授業参観で、自分たちで考えた運動をしていてとても楽しそうで良かった。みんなで楽しく運動ができることを考えて授業をするのが良いのでは。(長久保委員)
- ・今回の話し合いをもとに、今後、具体化をしていきたい。回数が限られているので、取り組みは少しずつにはなる。しかし、何年も継続して地域と学校が連携していく文化を、創ることが大切だ。(樋口座長)

(4) 事務局より

- ・第3回は、2月13日(火)の予定だが、変更になる。後日連絡。場所は、東小学校を予定している。

6 閉 会

## 令和5年度第2回洞峰学園コミュニティ・スクール推進会議

日時：令和5年10月4日（水）14：30～

場所：小野川小学校 CAI室（東校舎2階）

### 次 第

1 開 会

2 座長挨拶

3 本日の日程について

4 授業参観

5 協 議

テーマ

洞峰学園において、児童生徒の成長をどう見守り、支えていくか

～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」教育を通して、学校と地域が行えることは～

今後の予定について

第3回洞峰学園CS推進会議 令和6年2月13日（火）

6 閉 会

令和5年度 洞峰学園コミュニティ・スクール推進会議・協議会  
(第2回:10月4日水曜日)名簿

番号	委員の区分	氏名	よみがな	所属・役職	出欠席
1	(1) 児童・生徒の保護者	竹内 崇	たけうち たかし	R5二の宮小学校PTA会長	
2	(1) 児童・生徒の保護者	長久保 翠	ながくぼ みどり	R4東小学校PTA会長	
3	(1) 児童・生徒の保護者				
4	(1) 児童・生徒の保護者				
5	(1) 児童・生徒の保護者				
6	(1) 児童・生徒の保護者				
7	(2) 地域住民	木村 敦至	きむら あつし	R3谷田部東中学校PTA会長	
8	(2) 地域住民	塚本 和男	つかもと かずお	元評議員	
9	(2) 地域住民	加藤 千里	かとう ちさと	元評議員	
10	(2) 地域住民	村岡 敬子	むらおか けいこ	元評議員	
11	(2) 地域住民	柳沢 逸夫	やなぎさわ はやお	小野川小元評議員	
12	(2) 地域住民	高野 和直	たかの かずなお	小野川小元評議員	欠席
13	(2) 地域住民				
14	(2) 地域住民				
15	(3) 各学校長・教職員	永井 英夫	ながい ひでお	谷田部東中学校 校長	
16	(3) 各学校長・教職員	坂 匡浩	さか まさひろ	谷田部東中学校 教頭	
17	(3) 各学校長・教職員	平山 雅一	ひらやま まさかず	谷田部東中学校 教務主任	欠席
18	(3) 各学校長・教職員	高木 素子	たかぎ もとこ	二の宮小学校 校長	
19	(3) 各学校長・教職員	内藤 雅巳	ないとう まさみ	二の宮小学校 教頭	
20	(3) 各学校長・教職員	本松 知美	もとまつ ともみ	二の宮小学校 主幹教諭	欠席
21	(3) 各学校長・教職員	横田 康浩	よこた やすひろ	東小学校 校長	
22	(3) 各学校長・教職員	塚田 伸子	つかだ のぶこ	東小学校 教頭	
23	(3) 各学校長・教職員	井上 宏実	いのうえ ひろみ	東小学校 教務主任	欠席
24	(3) 各学校長・教職員	大高 純子	おおたか じゅんこ	小野川小学校 校長	
25	(3) 各学校長・教職員	渡部 哲	わたなべ さとし	小野川小学校 教頭	
26	(3) 各学校長・教職員	村田 晴美	むらた はるみ	小野川小学校 教務主任	欠席
27	(4) 学識経験者	樋口 直宏	ひぐち なおひろ	筑波大学 教授	
28	(4) 学識経験者	長谷 静香	はせ しずか	カウンセラー	
29	(4) 学識経験者				
30	(5) 関係行政機関の職員				
31	(6) 教育委員会が選定と認める者				

## 会 議 録

会議の名称		令和5年度第3回洞峰学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年(2024年)2月9日(金)開会 14:30 閉会 16:30		
開催場所		つくば市立東小学校 PC室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	樋口直宏(座長)、長谷静香(副座長) 竹内崇、長久保翠委員、塚本和男、加藤千里、 柳沢逸夫、高野和直、 谷田部東中学校:教頭 坂匡浩 小野川小学校 :校長 大高純子、教頭 渡部哲 教務主任 村田晴美 二の宮小学校 :教頭 内藤雅巳、主幹教諭 本松知美 東小学校 :校長 横田康浩、教頭 塚田伸子 教務主任 井上宏実		
	その他	谷田部東中学校 教頭 野中忠雄		
	事務局	生涯学習推進課:課長補佐 色川純子 係長 飯島遊 社会教育主事 渡邊亮太 地域連携教育指導員 酒井和宏、小島健		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		小中学校の学校評価から見えてきた課題 ・学校評価の結果についての説明(各教頭)		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日

会 議 次 第	1	開会
	2	座長挨拶
	3	本日の確認
	4	協議：「学校や地域の課題をもとに児童生徒に身に付けさせたい力とは何か、これからのCSの方向性を考える。」  ・児童生徒に身に付けさせたい力の確認  ・学校と地域が行えることの検討
	5	閉会

<p>&lt;審議内容&gt;</p>	
1	開会
2	座長挨拶
3	本日の確認
4	協議
(1)	第2回会議の振り返り 議事録をもとに
(2)	各学校の学校評価について各校教頭より説明
<p>小野川小：1. 児童の結果から友達と仲良く、健康と安全に気をつけて生活している明るく、優しい小野川小学校の児童の様子がよくわかる。読書や外遊び、積極的な発表、自己有用感についての意識は高くなかった。</p> <p>2. 保護者の結果から、児童が楽しく学校に通っていることや、学校が環境整備、安全や健康を守る活動をしっかり行っていることについて評価が高い。体力作りや読書、小中一貫教育については比較的評価は低かった。</p> <p>3. 教職員の結果からは、ほとんどの学校活動での取り組みに肯定的な評価だったが、中学校や他の小学校、地域との連携や、読書、体力作</p>	

りの取り組みは努力が必要だと感じていることがわかった。

二の宮小：1/29 に学校評価検討員会を CS 委員や専門家に参加していただき実施した。評価項目 8 の「お子さんをほめて、認めている。」や評価項目 24「学校は、安心・安全な学校づくりに努めている。」は、高い値を示し、成果を得た。評価項目 11「私は学級（学年・学校）の中で役立っていると感じている。」の児童の値が低く、保護者や教師の思いとずれがある。質問の意味をよく理解できるように具体例を挙げる等、質問内容も精査する必要がある。

東小：グランドデザインに関する質問で、「学習に対して意欲的に取り組んでいる」・自分の考えをもち、友達のととの共通点や相違点を捉え、考えを深めている」・「学校生活をよりよくするために、係活動を自分で考え工夫して取り組んでいる」・「交通事故や災害、不審者から自分を守ろうとする力が身に付いている」・「保護者や地域の人材、周辺の研究機関等の協力のもと、教育活動が進められている」等の項目で肯定的な意見が多かった。反面、分からないという回答の項目が見られたので、広報活動などを通して理解を得る必要がある。

谷田部東中：評価項目 4「学校は適切に ICT を活用し教育活動に生かしている」評価項目 17「お子さんは基本的な生活習慣やマナーが身に付いてきている。」の 2 項目に関して低い値となった。コロナ禍の授業配信がなくなった分と考える。また、生活習慣については、学校でも位凡事徹底に力を入れて改善を目指している。また、「夢や希望の実現に向けて取り組んでいる」という項目に関しては、昨年度と比較し 10 ポイントを超える評価となった。今年度は、コロナ禍依然と同様に様々な行事を行い、充実感、達成感が得られた結果であると考え。

生徒からは、「小中一貫教育を積極的に行っている」「授業では、自分の考えを共有したり、話し合ったり、伝えることができる。」項目が

低かった。更に実態を把握し、改善をめざしたい。

- (3) 本日のテーマ「学校や地域の課題をもとに児童生徒にみにつけさせたい力とは何か、これからのCSの方向性を考える。」についての熟議。小中学校の学校評価から見えてきた課題から、児童生徒に身に付けさせたい力の確認と学校と地域が行えることを検討する。

小野川小：自らの学びでは、自己表現力の向上と生活習慣をつける。地域との連携では、登校時の見守り活動を増やし、子どもを多くの大人で見守っていく。また、学区に放課後子供たちが集える場所ができるので、期待している。

二の宮小：関わりながら学ぶことができてきたので、今後は個でアウトプットできる枠組みを作る。自己肯定感の向上には、存在自体が大切であることを学校、家庭連携して伝えていく。安全面では、体力の向上について体育的行事の見直しや冬の水分補給や感染症対策を強化する。また、登下校見守りやメディア教育についても力を家庭地域と協力して取り組む。

東小：各校、課題となっていた自己肯定感について、そもそも自己肯定感とはというところから始める。特別活動を活性化させ、相手意識をもつこと、自分理解を深めること。地域との連携については、学校支援ボランティアを発展させ、学校のよき理解者を増やし、特別活動その他の教育活動を活性化させる。

谷田部東中：自己肯定感の向上について、全体を通して小中との関わり（縦割り）を深め、1年生から9年生の異学年交流の中で、親切にされたことなどへの感謝の気持ちをもつことで豊かな心の育成を図ったり、上級学年の見通しをもったりすることができる。

竹内委員：小中一貫教育の視点から、アンケート項目が各校共通する部分をつくり、経年変化など比較するとよい。

(4) 事務局より

令和6年度は法に基づいたコミュニティ・スクール協議会となります。今後の予定につきましては、期日、会場等は、後日連絡します。1年間ありがとうございました。

5 閉会



## 令和5年度第3回洞峰学園コミュニティ・スクール推進会議

日時：令和6年（2024年）2月9日（金）

14：30～16：30

場所：洞峰学園つくば市立東小学校

### 次 第

#### 1 開 会

- (1) 座長挨拶

#### 2 議 事

- (1) 座長より

- ・ 第2回 議事録の確認
- ・ 本日の確認

- (2) 小中学校の学校評価から見えてきた課題

- ・ 学校評価の結果についての説明（各教頭）

- (3) 熟議「学校や地域の課題をもとに児童生徒に身に付けさせたい力とは何か、

これからのC・Sの方向性を考える。」

- ① 児童生徒に身に付けさせたい力の確認
- ② 学校と地域が行えることの検討

#### 3 閉 会

## 会 議 録

会議の名称		令和5年度第2回洞峰学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和5年(2023年)10月4日 開会 14:30 閉会 16:30		
開催場所		つくば市立小野川小学校 CAI室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	樋口直宏委員(座長)、長谷静香委員(副座長) 竹内崇委員、長久保翠委員、木村敦至委員、塚本和男委員、 加藤千里委員、村岡敬子委員、柳沢逸夫委員、 谷田部東中学校：校長 永井英夫、教頭 坂匡浩 教頭 野中忠雄 小野川小学校：校長 大高純子、教頭 渡部哲 二の宮小学校：校長 高木素子、教頭 内藤雅巳 東小学校：校長 横田康浩、教頭 塚田伸子		
	その他			
	事務局等	生涯学習推進課：課長補佐 色川純子 係長 飯島遊 主査(社会教育主事) 渡邊亮太、村上和宏 地域連携教育指導員 酒井和宏、小島健		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	2人
非公開の場合はその理由				
議 題		1 授業参観 2 協議「洞峰学園において、児童生徒の成長をどう見守り、支えていくか」		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開 会 2 座長挨拶 3 本日の日程について 4 授業参観 5 協議：洞峰学園において、児童生徒の成長をどう見守り、支えていくか ～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」教育を通して、学校と地域が行えることは～ 6 閉 会			

〈審議内容〉

1. 開 会

2 座長挨拶

3 本日の日程について説明

4 授業参観（25分間）

小野川小学校の6校時の授業での児童の様子を委員全員で参観する。

5 協議

(1) 第1回会議の振り返り 議事録をもとに

(2) 本日のテーマ「洞峰学園において、児童生徒の成長をどう見守り、支えていくか」～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」教育を通して、学校と地域が行えることは～ について、各校教頭より「児童生徒に身に付けさせたい力」について説明

小野川：学力面では、自分の考えを上手に伝える表現する力。多くの資料や情報を元に文章を書く力。読解力。

心の面では、地域の人への思いやり。明るく前向き生きる力。誰にでもあいさつする元気な心。地域の人への思いやり。

体の面では、危険回避力、学区が広く狭い道も多いから。体力テストAが少ない、Aに近づきたい（遊びから）。

二の宮：学力面では、自分の考えをもち、他者の考えの共通点や相違点を扱え考えを深めていく力。習得した考えを活用し、解決する力。シームレスな家庭学習の習慣。得意を生かせる。

心の面では、感謝と思いやりの心。情報モラル教育。想像力。社会性とコミュニケーション力。自己肯定感を高めたい。いじめ未然防止につながる児童会などの自主的な取り組み。感謝と思いやりの心。

体の面では、危機回避能力（安全な登下校・ケガの予防）。体力向上。早寝・早起き・朝ごはん。

東 : 学力面では、自分の考えを書いて表現する力。他者との多様な関わり。  
対話を通して学びを深める力。探究的に学びを進める力。  
心の面では、相手を応援し支えることができる力。相手に向き合い、話を聞くことができる力。相手の良さを見つけて、伝えることができる力。自分の良さを知り、伝えることができる力。自己肯定感の高揚。  
体の面では、自分を守る力、危機回避能力。走力(瞬発力、持久力)。SOSの出し方。

谷東中 : 学力面では、生徒同士のアウトプットからの学び合い。モチベーションを引き上げる工夫。コロナの影響が大きい。主体的能動的に学習に向う。well-being Agency (OECD2030)。  
心の面では、周囲と共に個がよりよく生きるには。折れない心の育成、自己肯定感。目標・夢に挑む力。  
体の面では、体力の向上(持久力、柔軟性)。DCAAの永続。愛校精神の薄れ。部活動は教育活動に必要なのか。

### (3) 洞峰学園、地域の課題についての熟議

#### 【確かな学力】

竹内 : 家庭学習について、自分から考える力をつけるのは親も難しい。自ら積極的にできる方法を知りたい。

長久保 : 家庭学習は、やらされていると思うとだめ、目標を自分で決めることが大切。

木村 : 参観をされていて、低学年でもタブレットを使用していて良かった。スマホは子どもがよくできる。親がついていけない。ネットで危険がないような教育を、学校と親が協力してやることが大切。

#### 【豊かな心】

座長 : 登校の問題、中学校からみてどうでしょう。

永井 : 全国的に不登校が増えている状況の中、中学校でも、不登校の生徒への

家庭訪問を、1年で、20クラスで1000回はしている。社会的に自立するためにどうするかを考えて保護者と話し合い、校内フリースクール等多様な学びを提供している。それでも、増やさないようにするので精一杯な状況である。不登校は小学校からの生徒もいるが、中学校に入ってからなる生徒もいる。学力向上も大切だが、自己有用感、自己肯定感を高めて不登校児童を減らすことも義務教育には大切だと考える。

渡部 : 子どもにとって、家庭の明るさが大切で。挨拶ができる子どもは、家庭が明るい。家庭を明るく元気にする呼びかけが大切だと。小野川小のグループは話し合った。

長谷 : 自己肯定感を上げるのは大変。自己受容が大切だと思う。不登校でもいいんだよ。雨でも学校に行ってえらいね。そのままでいいんだよ。などと地域の人が、子どもたちに声かけをすることが子どもには大切ではないか。

竹内 : 自己肯定感の高揚が必要とあったが、今の子どもは、自己肯定感は十分だと思う。そのままでいいと思う。挨拶ができないと話があったが、知らない人には話してはいけないという家庭もある。挨拶をできる地域にするために、学校と話し合いを進めている。

柳沢 : 登下校の見守りをしている人はベストを着ている。ベストを着ている人には、元気に挨拶をしてほしい。

明るく挨拶をしあうことは、生涯にわたって大切なこと。挨拶をしなさいと学校や家庭で言うのではなく、親の姿を見て子は育つ、挨拶、お礼、感謝するような家庭を築いてもらいたいことがよいのではないか。

#### 【健やかな体】

樋口 : 最近の子どもたちのダンスはすごい。体力を上げるために、ダンスもいいと思う。

村岡 : 朝、サッカーをしている家族を見かける。運動が好きな家庭の子どもは運動する機会が多いと思う。

永井 : 部活動の後に、家庭で場所を借りて運動している生徒もいる。

長久保 : 運動しない親の子は、学校で継続して運動することが大切。今回の授業参観で、自分たちで考えた運動をしていてとても楽しそうで良かった。みんなで楽しく運動ができることを考えて授業をするのが良いのでは。

座長 : 今回の話し合いをもとに、今後、具体化をしていきたいと思いますが、回数が限られているので、取り組みは少しずつにはなるとは思いますが。しかし、何年も継続して地域と学校が連携していく文化を創ることが大切だと思います。

#### (4) 事務局より

第3回は、2月13日(火)の予定でしたが、変更になるので後日連絡します。場所は東小です。

## 6 閉会